

責任ある発信者を目指して

横須賀市立根岸学校 教諭 稲葉 朋也

1 主題設定の理由

近年、インターネットや SNS の普及によって、誰もが容易に情報を送受信できる世の中となった。誤った情報の拡散や不用意な発言によるトラブルなど発信に伴う責任が社会的課題として取り上げられている。子ども達にとっても決して無関係ではなく、「発信の当事者」としての意識を育む必要がある。インターネット空間における責任や、テクノロジーがもたらす社会への利益について考えることで、デジタル社会を主体的に生きる「責任ある発信者」の育成を目指す。

2 研究内容

今年度の総合的な学習の時間の単元テーマを「届け！根岸の魅力～責任ある発信者を目指して～」と設定し、総合的な学習の時間を中心として、各教科で、発信者としての責任について考えた。

総合的な 学習の時間	根岸の魅力調査 魅力発信メディアの作成
国語	デジタル機器の扱い方について 意見文を記述 生成 AI の活用
社会	主権者教育 政治を中心に
算数	データの活用
道徳	発信者としての責任 テクノロジー活用の倫理
特別活動	学級会 多数決は民主主義？

発信者としての責任意識を向上させ、学校・地域の魅力を効果的に発信できるようにするために、「1、デジタルシティズンシップに関すること」「2、根岸の魅力に関すること」「3、発信メディアを作成すること」の3つのフェーズに活動を分けた。デジタル社会のマナーについて考えた後、そのマナーを意識しつつ発信活動をするすることで、デジタルの善き使い手としての意識向上を目指す。

3 研究実践

本実践はフェーズ1の「デジタルシティズンシップに関すること」に当たる。本実践では、「テクノロジーを駆使して根岸の魅力を発信すること」をねらいの一つとしているため、テクノロジー理解・体験の一環として生成 AI を活用した。まず生

成 AI の仕組みや、個人情報を取り扱わないこと、誤った情報が生成されることもあることなど、注意点を確認し、生成 AI に触れる機会を設けた。生成 AI を用いた物語作りや、国語の文章を生成 AI で推敲するなどして、生成 AI を学びに取り入れてきた。本実践では、総合的な学習の時間では、年間を通して生成 AI を「探究のパートナー」として活用していくことを考えている。

今回公開した授業は、今後生成 AI を探究のパートナーとして取り入れていくための重要な役割を担う。魅力調査や、魅力発信のフェーズにおいて、生成 AI を活用していくにあたり、「AI の情報を鵜呑みにしてしまう。」「AI が生成したものに対して、発信の倫理的責任が希薄になる。」などの課題が考えられる。今回の実践では「友達に渡すお手紙を生成 AI に書かせて良いか。」を主発問とし、制作物に AI を使用したとしても、責任は作った人にあることを、議論を通して考えた。また、本実践では NHK for School の「姫とボクはわからないっ」の「AI ってなんじゃ？どう使う？の巻」を全員で視聴した。番組放送を教育活動に取り入れることで、全員が AI に関する一定の知識を共有し、議論の活性化をねらった。また、近年デバイスの個人使用化が進み、映像メディアを個人で視聴する機会が増えている。今回の実践では同じ番組を同時に視聴し、ICT を用いて感想をリアルタイムで共有することで、メディアを様々な角度から見る体験の機会とした。同じ放送を見ても、捉え方が様々なことを理解することで、今後の発信活動の手掛かりとなることをねらった。

4 成果と課題

本実践を経て、子ども達は生成 AI を探究で用いるときに、より気を付けて生成内容を読み返すようになった。学校や学区の魅力発信の記事の推敲や、見出しのアイデア出し、発信方法のアイデア出しなど、有効に使うことができていると感じている。一方で、AI リテラシーは「身に付いた・身に付いていない」で論じられるものではない。今後も子ども達と教室で AI を始めとしたテクノロジーとの関わり方を考えていきたい。